

化学体感学習（薬学部研修）

本校の例年の行事で、時代の最先端の研究をしている大学の研究者から講義や説明をお聞きしました。また普段高校ではできない実験を体験することで、理科・化学へのさらなる興味・関心を高めました。

各生徒が自分の将来について考える機会となっています。

日程：平成30年7月24日（火）

場所：大阪大学薬学部

参加者：生徒14名（1年生8名、2年生6名） 引率2名

午前

大阪大学薬学部准教授長野一也氏による講演『創薬への道』では、創薬における歴史や最先端の研究についてのお話を聞かせていただいた。日本における創薬の現状は、創薬には多額の研究費が必要なので、製薬会社は合併し莫大な費用をかけて新薬を合成すべく諸外国としのぎを削っている。医薬品はバイオ科学の利用から細胞医薬へと変わってきている。そういう社会情勢の中で大学が創薬の分野でどう関わっていくなど、また長野先生ご自身がどうして薬学への進路を決めたかをわかりやすく講義をしていただいた。なお、安倍首相でよく知られるようになった潰瘍性大腸炎の新薬アサコールのお話などは特に身近に感じていた。



長野准教授による講義

午後

大阪大学助教東阪和馬氏によるSDS-PAGE（ポリアクリルアミド電気泳動）の原理、ピペットマンの使用法、電気泳動、染色などの講義と実習であった。高校では使用しない器具を使った実験で、内容的にも少々難解な点もあったが、先生方を始め多くの院生の方々が生徒の実習に関わっていただいた。また、電気泳動の待ち時間には大学生活や就職についてなど普段なかなか聞けない話を直接お聞きすることができた。



ピペットマン実習



ゲル洗浄



ゲル流し込み



ゲル分析



研究室の皆さんと

堤研究室で実習研修

